1

1〜160

才二航空軍司令部略歴

（羽才八三〇〇部隊）

年	月	日	略歴	摘要
昭13	5	10	満洲新京に於て航空兵団司令部を才二航空軍司令部と改称 爾後引続き終戦まで司令部は新京に経理部は本部を新京各一部を奉天錦洲牡丹江、哈爾浜、佳木斯、斉々哈爾、白城子等に分遣せしめ在満航空関係部隊の最高司令部として各種作戦任務に服す 才二航空軍特種情報部　六三二頁 才二航空軍臨時飛行場設定隊　九〇八頁 才二航空軍才一教育隊　九一四頁 才二航空軍臨時通信教育隊　九一五頁 別紙	
20	9	2	新京その他駐屯地附近に於て終戦爾後「ソ」軍により武装解除	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歴代部隊長

自昭一九、八、八
至昭二〇、五、七 中将 板花義一

自昭二〇、五、八
至終戦 中将 原田宇一郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才三航空軍司令部略歴

（司才九八一三部隊）

年	月	日	略歴
昭17	6	27	「シンガポール」において編成完結 爾後終戦まで「シンガポール」にあつて南西方面航空関係部隊の最高司令部として南方方面全般の作戦任務に従事す
18	12	27	軍令陸甲才一二〇号により才三航空軍司令部付属部隊として才三航空軍司令部通信班を臨時編成
20	9	2	「シンガポール」において終戦
20	11	22	「シンガポール」出発同日「レンパン」島着
自21	5		「シンガポール」出発
至22	10		復員

摘要

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四航空軍司令部
（威第一五三〇〇部隊）
略歴

年月日	略歴
昭18・7・25	「ラバウル」において編成完結。
不明	「ニューブリテン」島に駐屯。
18・9・21	「ニューギニヤ」島に移駐、主として「ニューギニヤ」作戦に参加。
19・2	昭18。12・27軍令陸甲第一二〇号により第四航空軍司令部附属部隊として第四航空軍司令部通信班を臨時編成。
19・4・13	「セレベス」島に移駐。
19・9・22	「ルソン」島「マニラ」に移駐。
	比島作戦に参加。
20・2・28	比島失陥後「マニラ」において復帰 復帰后は部隊の建制を解き米軍収容所に入所し生存者の復員月日は一定がたい。

摘要

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

部隊長

中将　富永恭次

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五航空軍司令部（隼第二三七一部隊）略歴

年月日	略歴	摘要
昭14	北京において第三飛行集団司令部編成完結 爾後司令部は北京－南京－漢口－南京に移駐。	
16．12	南方に移駐（空輸及び船舶輸送）。	
17．6．10	昭南において第三飛行師団司令部と改称。	
17．7	南京移駐。	
19．2．10	軍令陸甲第八号により第三飛行師団司令部を第五航空軍司令部と改称。	
20．5．25	朝鮮転進のため南京出発。	
20．5．28	満支国境山海関通過。	
20．5．30	満鮮国境安東通過。	
20．5．31	京城着。	
20．8．15	停戦。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭			
20	9	9	移駐のため京城出発。
20	9	10	密陽着。
20	10	12	復員のため密陽出発。
20	10	17	釜山出帆、同日仙崎上陸復員

部隊長
中将　下山琢磨

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才一飛行師団司令部略歴

（才一〇四六部隊）

年月日	略歴	摘要
昭17.5.31	北海道札幌において編成 編成とともに当初札幌後帯広に位置し北東方面の航空作戦を担任す	
18.12.27	軍令陸甲才一二一号により才八三飛行場大隊等の通信関係の人員資材を転入し編成改正	
20.9.2	帯広に於て終戦	
20.11.4	復員	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才二飛行師団司令部略歴

（威才九一〇九部隊）

年	月	日	略歴
昭16	7	25	第二飛行集団司令部臨時編成（甲）下令
	7	29	牡丹江において編成完結
17	4	15	軍令陸甲第六号により第二飛行師団司令部と改称す
19	5	21	比島転進のため一部飛行機により牡丹江出発
	同	日	那覇着
	5	23	那覇出発
	同	日	屏東着
	5	24	屏東出発
	同	日	「マニラ」着
	5	27	比島転進のため一部飛行機により牡丹江出発
	同	日	新田原着
	5	28	新田原出発

摘要

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭			
19	5	28	那覇着
	5	29	那覇出発
	同	日	屏東着
	5	30	屏東出発
19	5	30	「マニラ着」
			午後比島作戦に参加
19	6	8	軍令陸甲第六一号により第二飛行師団司令部通信班を臨時編成
20	5	17	軍令陸甲第八三号により現地において復帰
			爾後第二飛行師団司令部生存者をもつて小隊を編成第六航空地区司令官の指揮下に入り「サンホアン」東方陣地の警備につく
	6	15	鈴木少佐の指揮を受け「マンダラガン山」を越え東海岸方面に分散移動す
	9	2	終戦に伴い戦斗行動停止爾後生存者（部隊）は所在の地点で武装解除されたのち米軍収容所に入る

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才四飛行師団司令部（翼第一一六〇一部隊）略歴

年	月	日	略歴	摘要
昭17	1		満洲新京才二航空軍司令部において才四飛行集団司令部編成完結	
17	2	26	移駐のため新京出発	
17	2	27	竜江省「チ、ハル」着	
17	4	15	勅命才四二五によリ、才四飛行集団司令部を才四飛行師団司令部と	
			改称編成改正	
18	8	25	移駐のため「チ、ハル」出発	
18	8	27	三江省佳木斯着	
19	4	25	動員下令（南方転進）	
19	5	3	動員完結	
19	5	19	飛行機により主力佳木斯出発同日奉天着	
19	5	20	右　奉天出発、同日大刀洗着	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭			
19	5	22	飛行機により主力大刀洗出発、同日那覇着
19	5		右　那覇出発、同日屏東着。 右　屏東出発、同日マニラ着。
19	6	3	南方転進のため主力佳木斯出発（陸路）
19	6	5	鮮満国境安東通過
19	6	8	釜山着
19	6	9	釜山港出発
19	6	23	比島「ルソン」島マニラ上陸 爾後同地において比島作戦参加
20	1	4	司令部「マニラ」より「エチアゲ」に転進米軍比島上陸に伴い臨時歩兵部隊及び臨時輸送部隊を編成し陣地構築並に物資輸送等地上部隊の戦闘に協力終戦にいたる。
20	9	17	「キャンガン」及び附近所在の地点において武装解除を受く 爾後米軍収容所に入る。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

7～2

歴代司令官

昭一九、三、二二以降

中将　木下　勇

中将　三上喜三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才五飛行師団司令部略歴

（高才九六三八部隊）

年月日	略歴	摘要
昭15.12.2	満州に於て才五飛行集団司令部編成完結	
16.11	満州より台湾に転進「あ」号作戦準備	
自16.12 至17.1	比島航空撃滅戦及び「マニラ」攻略戦参加	
17.1	台湾より泰国に転進	
自17.1 至17.3	才一次「ビルマ」航空作戦及び「ラングーン」攻略戦参加	
17.3	泰国より「ビルマ」国「モールメン」を経て「ラングーン」に転進	
自17.3 至17.4	才二次「ビルマ」航空作戦参加	
自17.4 至17.5	「マン」作戦参加	
17.6.10	才五飛行集団司令部を才五飛行師団司令部と改称	
自17.7 至17.9	才一次防衛作戦参加	
自19.1 至19.6	反攻迎撃砕作戦「ウ」八号九号作戦に参加	
20.3.15	「ラングーン」出発	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年	月	日	事項
昭20	4	26	泰国「ウボン」着
	5	23	「ウボン」出発、同日「パクセ」着
	8	15	終戦
	8	25	「パクセ」出発
	8	29	「プノンペン」到着
21	5	10	「サンチャック」出発
	5	24	鹿児島上陸、同日復員

部隊長

初代　中将　小畑英良

二代　中将　田副　登

三代　中将　服部武士

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才六飛行師団司令部略歴

（洋才九三〇一部隊）

年	月	日	略歴	摘要
昭17	11	24	軍令陸甲才一〇一号により臨時編成下令	
	11	30	東京において編成完結	
	12	1	宇品港出発	
	12	23	「ニューブリテン」島「ラバウル」上陸	
自17 至18	12 8	23	「ニューブリテン」島「ラバウル」「ソロモン」及び「ニューギニア」島「ウエワク」「アレキシス」各方面航空作戦に参加	
	8	中旬	才四航空軍の隷下に入る	
	8	下旬	「ウエワク」に司令部を移し「ラバウル」には才八方面軍及び南東方面艦隊司令部と連絡のため連絡所を残す、東部「ニューギニア」作戦活発になるにつれて「アレキス」に司令所を進め、最前線にて陣頭指揮を行うと共に才八方面軍司令部と緊密なる連絡下に地上作戦に協力、航空撃滅戦に多大の戦果を収める	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年	月	日	事項
昭19	3		司令部を「ホーランヂヤ」に移す
自18 至19	8 4		「ウエワク」「ホーランヂヤ」各方面航空作戦参加
19	4	23	「ホーランヂヤ」出発
	6	上旬	「サルミ」到着師団長以下一部は「マノクワリ」に転進、大部分の人員は「サルミ」に於て第三十六師団指揮下に入らしめ同地附近の地上作戦に参加
19	7	25	軍令陸甲第九三号により復帰を命ぜらる
	8	31	司令部は「マニラ」において現地復帰完結するも通信杜絶のため現地に軍令到着せず現地部隊は依然第三十六師団の指揮下に在りて作戦参加
20	8	15	残置生存者は「サルミ」に於て停戦
	9	2	終戦に伴い戦斗行動停止
21	6	3	復員のため「サルミ」出発
	6	17	名古屋港上陸
	6	18	復員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第七飛行師団司令部略歴

（襲第九三一一部隊）

年月日	略歴	摘要
昭18.1.28	軍令陸甲第七号により満州佳木斯において編成	
2	南方転進のため佳木斯出発	
3~2	「ジャワ」島「マラン」着	
自18.2.18 至18.5.14	爪哇島周辺地区撃滅戦参加	
自18.5.15 至18.6.23	四「ひ」号第一次濠州進攻作戦参加	
7	「マラン」出発	
9~7	「ニューギニア」「ウェワク」着	
自18.6.24 至18.8.3	南東方面転進作戦参加	
自18.8.4 至18.11.30	東部「ニューギニア」撃滅戦参加	
18.11	「ウェワク」出発「ペラオ」着	
12.27	軍令陸甲第一二〇号により「アンボン」島において司令部付属部隊として第七飛行師団司令部通信班を臨時編成	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年	月	日	事項
昭19	2		「パラオ」出発、台湾着
	3		台湾出発、比島経由「アンボン」着
自18 至19	12 3	1 24	濠北撃滅戦参加
19	8		転進のため「アンボン」出発「セレベス」島「マカッサル」着
自19 至20	1 1	1 31	第一次濠北作戦参加
20	4~3		「マカッサル」出発「ジャワ」島「マラン」着
	7	10	軍令陸甲第一〇三号により現地復帰下令
	7	24	復帰完結、主力を独立第一〇六教育飛行団に、各一部を昭南「スマトラ」航空部隊および「ジャワ」島駐屯部隊に編入せらる

師団長

中将　須藤栄之助　昭一八、一一、二九－昭二〇、四、六

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第八飛行師団司令部 略歴

（誠第一八九〇一部隊）

年月日	略歴	摘要
昭19. 6. 8	昭和一九年軍令陸甲第六一号により臨時編成下令	
6. 10	東京において編成完結	
6. 29	東京出発同日台北に進駐し第一〇方面軍司令官の隷下に入らしめらる	
自19. 7 至19. 12	主として台湾近海通過の我が輸送船団の掩護および比島方面に転進する航空部隊の整備その他の援助に任ず	
自20. 1 至21. 3	比島方面より進撃を予想せらるゝ米軍の上陸に対する撃攘作戦準備	
自20. 3. 26 至20. 6. 20	台湾ならびに南西諸島における天号航空作戦参加	
自20. 7. 7 至20. 7. 14	台湾以南南方戦域にある使用可能飛行部隊を台湾に集結し爾後の本土作戦に協力準備	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭			
20	9	2	台北、台中において終戦
21	2	22	内地復員のため基隆出発
21	2	27	鹿児島上陸同日復員

部隊長

中将　山本健児

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才九飛行師団司令部略歴

（翔才一五三五〇部隊）

年	月	日	略歴	摘要
昭18	12	10	軍令陸甲才一一八号により、才二一独立飛行隊本部現地復帰（昭南）に伴い同隊の人員資材を基幹として才九飛行師団司令部編成着手	
	12	31	昭南において編成完結	
19	1	8	移駐のため昭南出発	
	1	11	「スマトラ」島「パレンバン」移駐	
			爾後主としてスマトラ油田地帯の防衛担任	
20	8	15	停戦	
21	3		司令部主力は「パレンバン」より「メダン」経由「マライ」に移動	
	5	19	主力内地復員するも爾後逐次復員	
22	10	23	復員完了	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歴代司令官

初代　中将　島田隆一

二代　中将　橋本秀信

三代　中将　白銀重二

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一三飛行師団司令部　略歴

（隼第二二一〇一部隊）

年	月	日	略歴	摘要
昭20	3	7	昭和二〇、二、二六、軍令陸甲第三三号に依り南京第五航空軍司令部に於て編成を完結。	
20	3	10	漢口に移動、爾後同地に於て第五航空軍司令官の隷下に在りて広東省湖南省各東部省境－開封－老河口を連ぬる線（線上を含む）以西の中国内地区に於ける航空作戦の指導に従事し、一部偵察兵力を以て老河口作戦及び芷江作戦に協力。	
20	5		第五航空軍朝鮮移動に伴い、支那派遣軍総司令官の直轄支那に於ける航空司令部として作戦担任。	
20	5	18	南京に移動し、爾後同地に在りて連雲港－徐州－鄭州－西安を連ぬる線（線上を含む）以南の中国地区に於ける作戦に従事し終戦に至る。	
21	4	22	博多に上陸、復員。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才五三航空師団司令部　略歴

（宙才五〇三部隊）

年	月	日	略歴	摘要
昭20	2	20	昭二〇、二、一三軍令陸甲才二七号により、朝鮮京城において才一〇三、才一〇四教育飛行団司令部を改編、編成完結爾後同地において教育訓練実施	
20	8	15	京城において終戦	
20	9		太田に移駐	
20	10	20	釜山港出発	
20	10	20	仙崎上陸復員	
			師団長	
			初代　中将　広田豊	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才五五航空師団司令部略歴

（昭才一九〇五〇部隊）

年	月	日	略歴
昭19	7	25	軍令陸甲才九四号により臨時編成下令
19	12	31	シンガポールにおいて編成完結
20	7		馬来「プーケット」沖機動部隊専滅作戦に参加
20	8	15	停戦
20	11	21	連合軍の指示により昭南出発
20	11	21	「レンパン」島に移駐
22	6	14	内地帰還のため「レンパン」島出発
22	6	29	宇品上陸
22	6	29	復員完結

摘要

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才三〇戦闘飛行集団司令部　略歴

（威才一九〇二五部隊）

年	月	日	略歴	摘要
昭19	10	11	軍令陸甲才一三六号により臨時編成下令	
19	10	13	三重県明野教導飛行師団において編成完結	
19	10	24~15	飛行機により明野並に新田原出発	
19	10	26~16	比島クラーク到着	
			比島作戦に参加飛行戦隊の指揮に任ず	
20	1	13	作戦指導のため一部を「エチアゲ」「アパリ」「ツゲガラオ」に派遣す	
自20 至20	1 2	30 11	戦局の変化に伴い、内地帰還の命令を受領飛行機によるもののみ「クラーク」「アパリ」「ツゲガラオ」出発台湾到着	
20	2	24~20	一部飛行機により台湾屏東出発同日内地福岡着 爾後司令部は埼玉県所沢に位置す	
20	2	27	一部輸送船により台湾基隆港出発	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年	月	日	記事
昭20	3	9	門司港着
20	7		所沢より熊本に移動、本土防衛戦に参加
20	8	15	停戦
			比島残置隊の行動
20	1	30	司令部内地転進後の残置隊は、夫々所在地において鉄兵団藤沢兵団等地上部隊の指揮下に入り陣地構築並に肉迫攻撃戦に参加
20	9	2	終戦に伴い戦闘行動を停止し、爾後生存者(部隊)は、所在の地点において武装解除を受けたる後米軍収容所に入る
			団長
			小将　青木武三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才一飛行団司令部略歴

（隼魁才二三七三部隊）

年	月	日	略歴	摘要
昭12	7	10	岐阜において編成完結	
	7	26	北支移駐のため宇品港出発	
	7	27	釜山港上陸	
	7	31	鮮満国境安東通過	
	8	2	満支国境山海関通過、同日北京着	
			爾後同地において支那事変に参加	
15	9	4	南支転進のため北京出発	
	9	5	南京着	
	9	6	上海港出発	
	9	19	基隆寄港	
	9	24	広東着	
	11	27	北支移駐のため広東出発	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年	月	日	事項
昭15	12	7	塘沽上陸
	12	8	北京着、爾後同地において支那事変参加
16	11		南京に移駐、同時に独立才一飛行団司令部と改称編成改正支那派遣総司令部の隷下に入り大東亜戦参加
17	8		広東に移駐才三飛行集団司令部の隷下に入り大東亜戦参加
18	3		漢口に移駐、大東亜戦参加
19	2	2	軍令陸甲才二四号により独立才一飛行団司令部を才一飛行団司令部と改称
			編成改正
20	5	20	朝鮮移駐のため漢口出発
20	5	23	満支国境山海関通過
	5	24	鮮満国境安東通過、同日金浦着、爾後同地において作戦参加
	8	15	停戦
	8	26	晋州に移動
	10	6	釜山出発、同日仙崎上陸
	10	8	復員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才二飛行団司令部略歴
（隼才九一〇〇部隊）

年	月	日	略歴	摘要
昭16	7	29	会寧において編成完結	
17	10	6	移駐のため会寧出発	
	10	18	佳木斯着	
	10	22	一部移駐のため飛行機により会寧出発	
	10	22	佳木斯着	
18	9	7	移駐のため佳木斯出発	
	9	7	牡丹江省寧安県海浪着	
19	4	26	北支那へ出動下令	
	4	27	編成完結後同日まで満州に於て演習警備	
	4	27	支那方面大東亜戦参加の為飛行機により海浪出発	
	4	28	河南省新郷着、京漢作戦参加	
	5	1	海浪出発（地上輸送）	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭19	5	7	河南省新郷着
	6		上旬広東に転進湘桂作戦参加
20	5	27	広東出発決号作戦参加の為大卯転進
	8	15	停戦
	10	8	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三飛行団司令部略歴

（隼第二三七五部隊）

年月日	略歴	摘要
昭12.8.1	臺湾嘉義に於て臨時編成	
8.25	臺湾屏東を出発	
9.1	上海呉淞港上陸	
自12.9.1 至16.11.20	呉淞港上陸後、揚子江流域を遡行し（主として南京、九江、二套口、武昌、漢口に位置）地上兵団協力及び武漢攻略並に各局地戦斗に参加	
自16.11.21 至20.2.22	佛印、泰、マライ、スマトラ、ジャワ、濠北、ニューギニア並に比律浜諸島を転戦し各地の航空及び地上兵団に協力、船団援護等の作戦に参加	
19.3	昭和一九、二、二二軍令陸甲第二四号に依り編制改正	
自20.2.23 至20.8.15	中支那に転進、上海、南京に在りて防空並に東支那海に於ける船団援護等の作戦に従事。	
21.2.21	終戦内地帰還のため中支龍潭鎮出発。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

21	21	21
2	3	3
22	15	18
上海着	内地帰還のため上海港出帆	佐世保港上陸、復員。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四飛行団司令部略歴

（威第九九〇二部隊）

年	月	日	略歴	摘要
昭12	7		内地において編成完結	
	9		北支に移駐	
14	9		台湾に移動	
16	7	6	臨時出動下令	
	7	19	臨時編成部隊甲第四飛行団司令部編成改正下令	
	7	31	屏東において編成改正完結	
			爾後同地において事変勤務及び「あ」号作戦準備	
16	12		佳冬に移駐	
	12		比島に転進「ルソン」島「アパリ」着「ビガン」に移動「マニラ」攻略戦参加	
17	1		移駐のため比島「ビガン」出発、台湾屏東着	
	1	18	屏東出発、仏印河内着	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年	月	日	事項
昭17	1	19	河内出発（飛行機）仏印国境通過、泰国「ドンムアン」着
	1	23	「サルマグ」港出発
	1 1	25 8	泰国転進並泰緬国境突破作戦に参加
	1	25	泰国盤谷上陸
	1	25	泰国「ドンムアン」着
	2	4	泰国盤谷上陸
	2	5	「ドンムアン」着
	3	7	「ドンムアン」出発
	3	9	泰「マレー」国境通過
	3 1	10 26	「ビルマ」第一次航空作戦「ラングーン」攻略戦に参加
	3	12	昭南島着
	3	19	同港出発
	3	20	緬甸「ラングーン」着（飛行機）
	3	28	緬甸「ラングーン」着
	4	6	緬甸「トング」着（飛行機）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

20の2

	年	月	日	事項
自		3	11	才二次「ビルマ」航空作戦に参加
至		4	10	
自		4	11	「マン」作戦に参加
至		5	18	
自		5	19	才一五軍戡定作戦協力に参加
至		6	10	
自		6	11	雨期態勢
至		7	23	
自		7	24	才一次防衛作戦に参加
至		9	30	
自		10	1	「ビルマ」周辺地区航空撃滅戦に参加
至		11	30	
	17	12	25	昭和一七年軍令陸甲才一九条号に依り才四飛行団司令部編成改正下令
		12	31	緬甸において編成完結
自	17	12	1	才二次緬甸周辺地区航空撃滅戦に参加
至	18	1	31	
自	18	2	1	才三一号作戦協力並に才三次緬甸周辺地区航空撃滅戦に参加
至	18	6	7	
		6	9	馬来転移のため「トングー」出発（飛行機）
		6	9	泰緬国境通過、泰馬来国境通過
		6	9	馬来「スンゲイパタニ」着
		6	10	「ラングーン」着
		6	16	「ラングーン」港出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年	月	日	事項
昭18	6	21	馬来プライ港上陸
	6	21	「スンゲイパタニ」着
	自6 至9	8 30	雨期態勢
	10	18	緬甸転進の為「スンゲイパタニ」出発（飛行機）馬来泰国通過、泰緬国境通過、緬甸「ヘホ」「カロー」着
	10	18	緬甸転進の為「スンゲイパタニ」出発「プライ」着「プライ」出発
	10	25	緬甸「ラングーン」港上陸
	10	30	「カロー」着
自18 至19	10 1	1 9	反攻迎撃々砕作戦に参加
	3	25	昭和一九年軍令陸甲才二四号に依り才四飛行団司令部編成改正下令
	3	31	編成完結
	自1 至6	10 15	反攻迎撃々砕作戦に参加
	9	30	「ヘホ」転進のため「カロー」出発、「ヘホ」着
	自6 至12	16 15	反攻迎撃々砕作戦に参加
20	2	13	ヘホ出発（飛行機）ピンマナ着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20		
2	23	ピンマナ出発
3	1	トングッ発、ラングーン着
3	5	泰国転進の為「ヘホ」出発
4	5	泰緬国境（ニーケ）通過
4	7	「ラングーン」発 「モールメイン」着
4	17	泰国盤谷着
5	3	泰緬国境（ニーケ）通過
5	3	泰国転進のため「モールメイン」発
		泰緬国境通過、泰国盤谷着
5	7	泰国盤谷着
8	7	印度支那転進の為盤谷出発
8	9	泰印支国境「スパイダンケオ」通過
8	9	印度支那「コンポンクーナン」着
8	11	印度支那転進のため盤谷出発
8	12	泰印支国境「スパイダンケオ」通過

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年	月	日	事項
昭20	8	12	印度支那「コンポンクーナン」着
	8	14	印度支那転進の為盤谷出発（飛行機）
			同日泰印支国境通過、印度支那
	8	15	「コンポンクーナン」着、停戦
	11	11	西貢地区警備継承の為「コンポンクーナン」出発
	11	12	西貢到着、同地警備
	12	22	「サンジャック」移駐の為西貢出発
	12	22	「サンジャック」到着
21	4	10	西貢港出発
	4	15	広島県大竹港上陸、復員完結
	4	29	「サンジャック」港出発
	5	8	大竹港上陸
	5	9	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五飛行団司令部略歴
（威第一一六一一部隊）

年	月	日	略歴	摘要
昭18	1	28	軍令陸甲第七号に依り編成下令	
	3	20	公主嶺において編成完結	
19	2	16	内地派遣のため公主嶺出発（先発地上）	
	2	16	内地派遣のため公主嶺出発（空路）	
	2	17	鮮満国境安東通過	
	2	17	各務原着（空路）	
	2	18	釜山港出帆	
	2	18	下関港上陸	
	2	18	立川着	
	2	20	内地転進のため公主嶺出発（後発地上）	
	2	20	鉾田出発（空路）	
	2	20	帯広着	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭19	2	21	鮮満国境安東通過
	2	22	下関着
	2	24	鉾田着
	4	1	北海道転進のため鉾田出発（先発）
	4	3	帯広着
	4	6	北海道転進のため鉾田出発（後発）
	4	8	帯広着
	6	10	帯広発（空路）
	6	10	千島天寧着
	6	20	天寧出発（空路）
	6	20	帯広着
	9	6	南方転進のため帯広出発空輸により宇都宮飛行場着
	9	12	千島（天寧）出発
	9	15	帯広着
	9	27	転進のため帯広出発（地上先発）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭19		
9	28	函館着
9	28	青森上陸
9	29	宇都宮着
10	6	転進のため帯広出発（後発地上）
10	7	青森着
11	1	比島派遣のため飛行機により宇都宮出発（先発）
11	1	新田原着
11	3	新田原出発（空路）
11	3	台湾嘉義着
11	8	宇都宮発、空中輸送により新田原着（後発）
11	9	新田原発空中輸送により沖縄本島那覇飛行場着
11	10	嘉義発（空路）
11	10	「マニラ」着
11	10	「マニラ」発
11	10	「デルカルメン」着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年	月	日	事項
昭19	11	11	沖縄発、台湾屏東着
	11	12	屏東発、比島ルソン島デルカルメン着
			オ二次比島作戦参加
20	1	2	デルカルメン出発
	1	2	屏東着
	1	11	デルカルメン発（空路）
	1	11	屏東着
	1	11	屏東発（空路） 嘉義着
	1	12	比島「デルカルメン」発「マレー」転進のため空中輸送に依り屏東着（地上勤務者一部残置）
	1	12	屏東発 嘉義着
	3	9	嘉義発（空路）
	3	9	海南島三亜着
	3	10	海南島発
	3	10	「カンボチア」「プノンペン」着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年	月	日	記事
昭20	3	11	「スンゲイパタニー」着
	3	29	プノンペン発
	3	29	広東着
	3	30	広東発
	3	30	上海着
	3	30	上海発　熊本着
	3	31	嘉義飛行場発空中輸送により上海着
	3	31	上海発空中輸送により熊本着
	4	3	熊本発空中輸送により浜松着
	4	4	下志津着
	4	5	下志津発　北海道帯広着
	4	7	西筑波発
	4	7	帯広着
	4	15	帯広発　立川着
	4	16	立川発　西筑波着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	4	17	帯広発
	4	17	西筑波着
			比島残留者の行動
昭20	1		鉄兵団長の指揮下に入り陣地構築並に戦斗に参加
	9	2	終戦に伴い、戦斗行動停止所在地において武装解除後米軍収容所に入る

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六飛行団司令部
（威第九一一五部隊）

略歴

年月日	略歴	摘要
昭17　3　31	昭和16年軍令陸甲第一八号により満洲国北安省綏化県において編成完結 関東軍司令官の隷下に入らしめられる。	
17　4　18	東安省勃利県呆樹に移駐。	
自18　1　28 至〃　2　3	第二飛行師団冬期演習参加。	
自19　1　7 至〃　1　13	第二飛行師団冬期演習参加。	
19　1　27	軍令陸甲第一二〇号により編成改正着手。	
〃　1　31	編成改正完結。	
自19　5　21 至〃　6　12	錦州において艦船攻撃訓練実施。	
〃　6　17	南方派遣を下令せらる。	
〃　6　27	地上移動部隊杏樹出発。	
〃　7　1	空中移動部隊杏樹出発。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭 19	7	6	空中移動部隊比島「ルソン」島「バタンガス」州「リパ」着。
〃	7	24	地上移動部隊「リパ」に到着。
自 19 至 〃	7 7	24 27	「バシー」海峡の敵潜水艦掃蕩作戦に参加。
19	8	15	谷少尉以下二七名は「マニラ」港出帆。 「パラワン」島「プエルトプリオンサ」に到着「パラワン」島派遣隊となる。
自 19 至 〃	9 9	10 11	北部「ルソン」島海域の敵潜水艦掃蕩作戦に参加。
19	9	26	比島決戦に参加するため「ボルネオ」島「サンダカン」に移駐。
自 19 至 〃	10 11	1 23	第二次比島作戦ならびに「レイテ」島付近の戦斗に参加。
19	12	10	主力は戦力恢復ならびに機種改変のため「リパ」出発 茨城県鉾田に移駐して航空総監の指揮下に入らしめられ一部「ルソン」島残置隊は第四飛行師団長の指揮下に入らしめらる。
20	3	1	「ルソン」島残置隊諸角中佐以下四九名は四飛師作命により臨時集成飛行隊に転属、加納少尉以下一九名は臨時独立歩兵大隊に転属。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

20	3	10	残置隊主力は独立飛行第五二中隊に転属。
20	5		残置隊の一部は台湾小港付近に移動。
20	8	15	停戦。
20	8	25	小港部隊は台湾軍第一二師団歩兵第四八連隊に転属。
20	8	31	内地部隊復員
自 21	2	6	台湾および比島部隊復員
至 21	12	28	

歴代部隊長

初代　平田勝治

二代　小野門之助

三代　今津正光

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp